



白井市水道事業について

令和7年8月8日（金）

令和7年度 第1回白井市上下水道事業審議会



白井市水道事業の概要

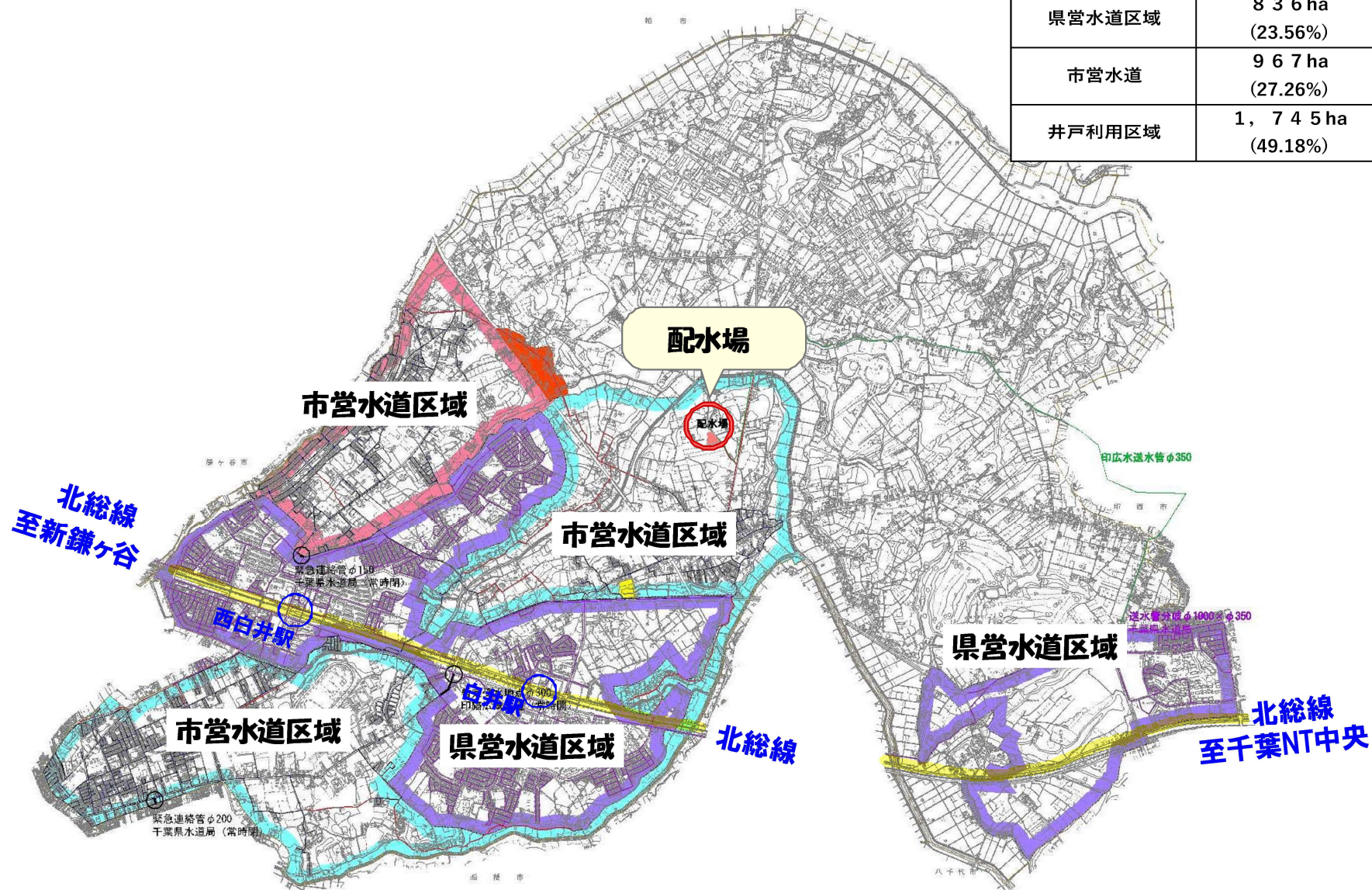




沿革

- 昭和59年 白井町の町営水道が始まる
- 昭和62年 富士地域から給水開始
その後、白井、西白井、富塚…各地域順次給水開始
- 平成 9年 区画整理事業に伴い、西白井地区の拡張
- 平成13年 町から市へ（市制施行）
- 平成28年 配水場建設着工
- 平成30年 配水場完成
平成31年4月から市営水道区域全域配水開始
- 令和 2年 経営基盤強化のため、水道料金改定
平均改定率15%改定
- 令和 2年 白井市上下水道事業経営戦略策定
（令和3年度～令和12年度）
- 令和 5年 白井市水道事業アセットマネジメント計画策定
（令和5年度～令和44年度）

行政面積	3, 5 4 8 ha
県営水道区域	8 3 6 ha (23.56%)
市営水道	9 6 7 ha (27.26%)
井戸利用区域	1, 7 4 5 ha (49.18%)



令和6年度末

■給水人口 19,167人

県営水道人口	35,588人	令和5年度末
市内人口	61,974人	

市内全体普及率 88%

■給水戸数 8,177戸

県営水道戸数	14,674戸	令和5年度末
市内戸数	27,426戸	

■給水量

年間給水量 1,770,198m ³	有収水量 1,746,457m ³	有収率 98.7%
	無収水量等 23,741m ³	無収率 1.3%

白井配水池
約571杯分

水道料金収入に
つながった水量

漏水、消防などで使用
(料金収入にならなかった水量)

※1m³ (1,000L) = 500mlペットボトル×2,000本

令和6年度末

■配水管総延長 約101 km

第142期配水管布設工事（富士地先）



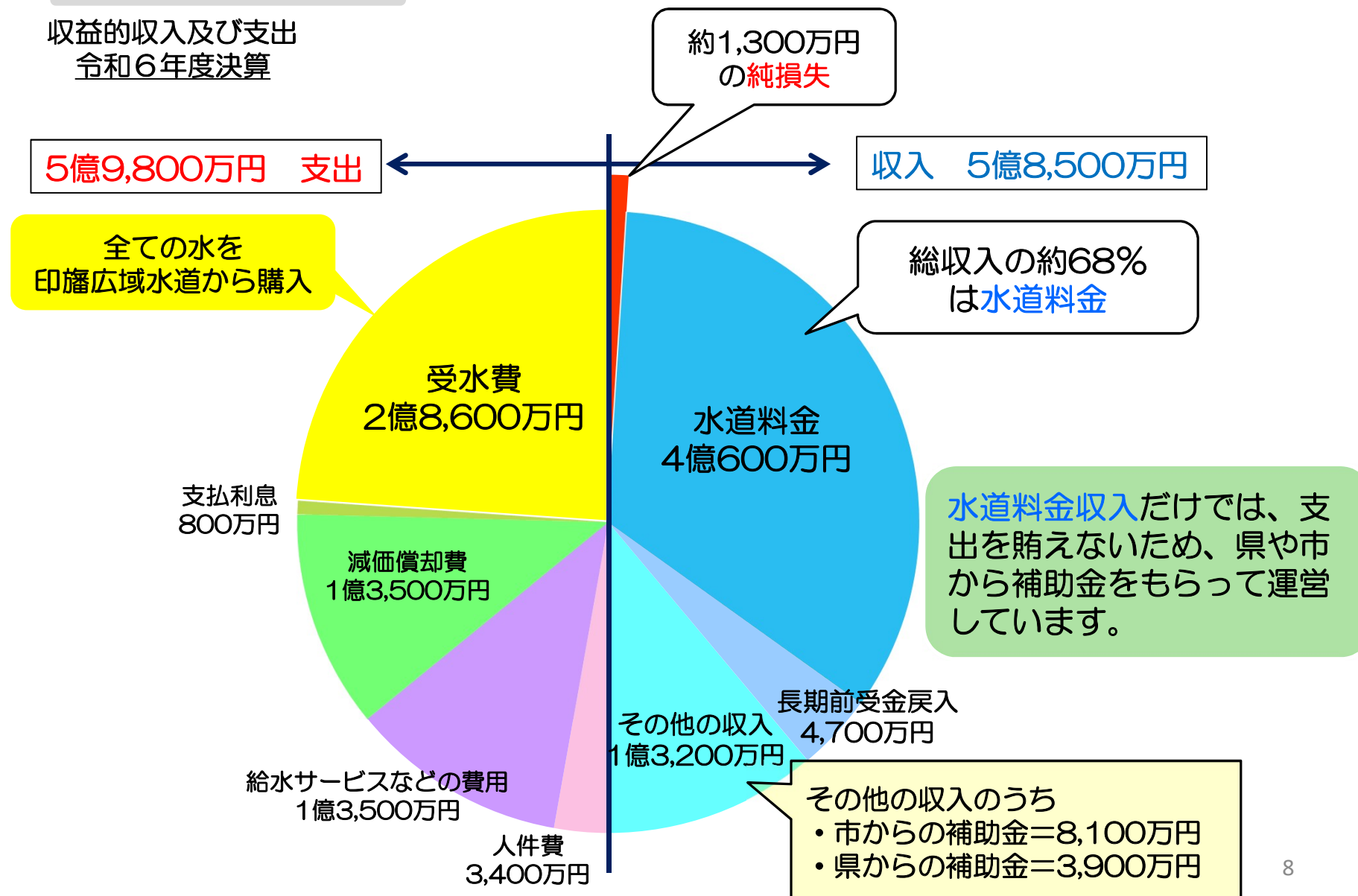
配水管洗浄作業業務（H29年度～）





収益的収入及び支出
令和6年度決算

■会計…経理は企業会計方式





白井市上下水道事業経営戦略について





経営戦略とは

中長期的にバランスのとれた投資計画と財政計画に基づいた事業運営により経営健全化を目指すための計画

【投資試算】

将来にわたって安定的に事業を継続していくために必要となる施設・設備に関する投資の見通しを試算した計画。



【財源試算】

「投資試算」等の支出を賄うための財源（料金収入、企業債、繰入金）の見通しを試算した計画。

【収支均衡】

投資と**財源**が均衡していること。

（法適用事業では「純損益」が黒字となること）

【収支ギャップ】

投資に対し**財源**が不足していること。

（法適用事業では「純損益」が**赤字**となること）

経営基盤強化と財政マネジメントの向上を図る



経営戦略の主な記載内容

①事業概要

事業の現況、経営比較分析表を活用した現状分析等

②将来の事業環境

人口・水量予測、使用料・施設・組織の見通し

③経営の基本事項

経営理念、経営方針

④投資・財政計画

収支計画（投資・財政計画）の策定、収支均衡の取組事項
今後の投資・財政・経費についての考え方や検討状況

⑤経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略策定後の事業の進捗管理や見直し



経営戦略見直し時期



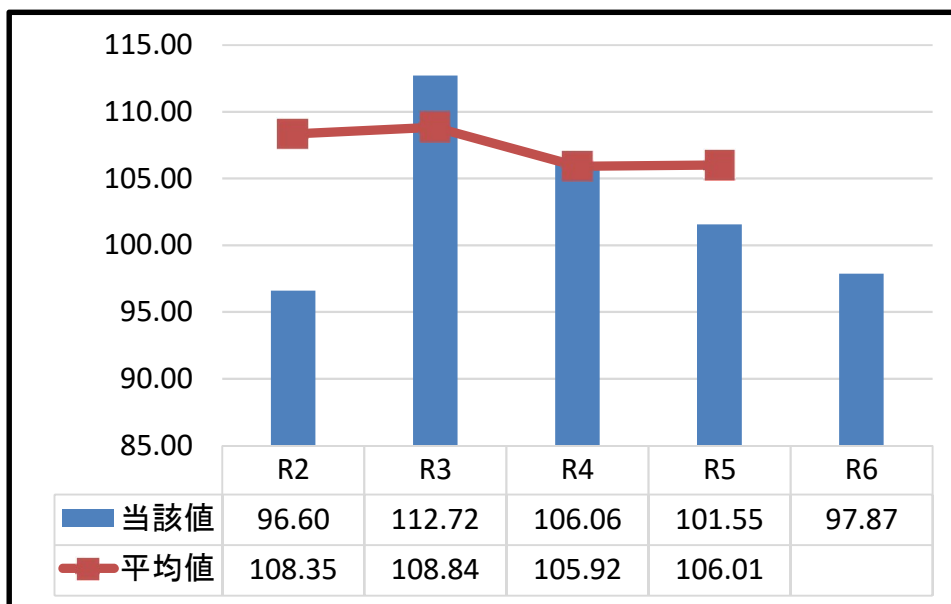


経営戦略進捗状況報告（令和2～6年度）





① 経常収支比率（％）



【指標の説明】

当該年度において、給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているか表す指標であり、100%以上の場合は黒字であることを示しています。

【算出式】

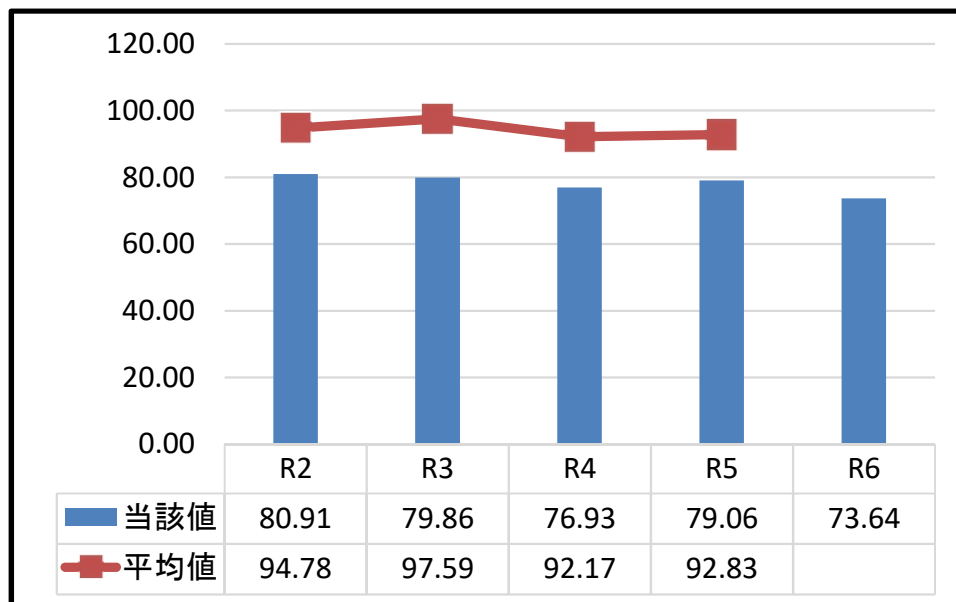
$$\frac{\text{経常収益(営業収益+営業外収益)}}{\text{経常費用(営業収益+営業外費用)}} \times 100$$

(※平均値は、全国の類似団体の値)

本市の経常収支比率は、令和2年4月(2020年4月)に料金改定を実施して以降は100%を超えており、黒字が続いていましたが、令和6年度(2024年度)は主に配水及び給水費の工事請負費等、営業費用の増加により健全経営の水準とされる100%を下回り赤字となりました。



⑤料金回収率（％）



【指標の説明】

給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標であり、100%を下回っている場合、給水に係る費用が給水収益以外の収入で賄われていることを示しています。

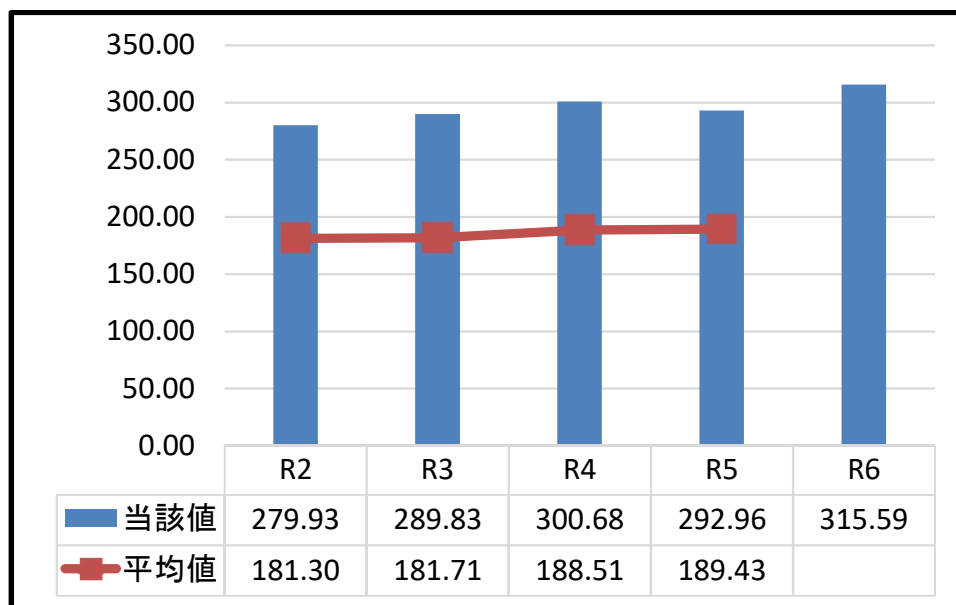
【算出式】

$$\frac{\text{供給原価}}{\text{給水原価}} \times 100$$

本市の料金回収率は、事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況とされる100%を下回っています。令和6年度(2024年度)は主に新たな上水道システムに更新するための賃借料、配水管撤去及び仕切弁修繕工事に伴う工事請負費等の増額により配水及び給水費用が増加したことから、数値が低下しています。



⑥給水原価（円）



【指標の説明】

有収水量1㎡あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標です。

【算出式】

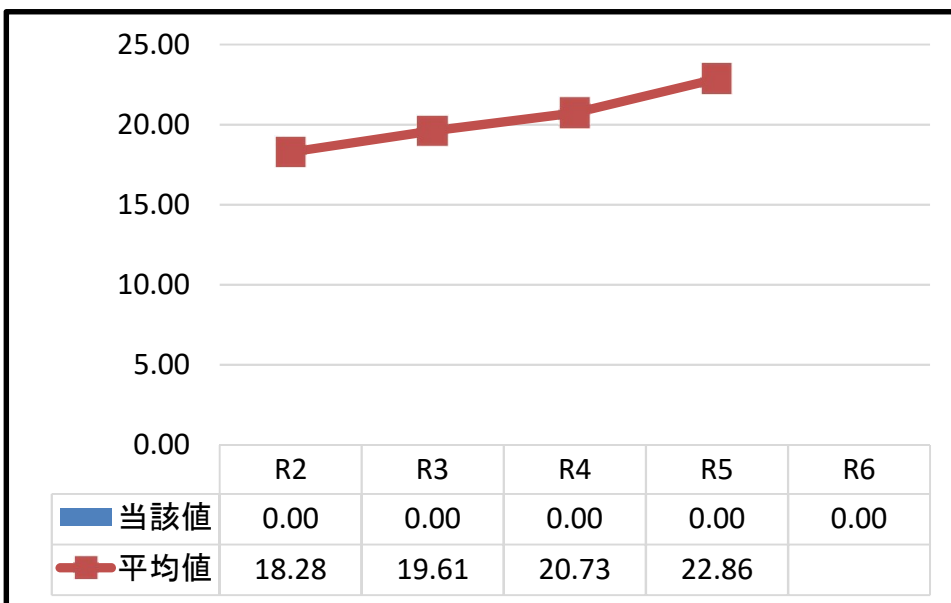
$$\frac{\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{付帯事業費}) - \text{長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}}$$

本市の給水原価は類似団体と比較して、高い値となっています。

要因としては、本市では水源となる井戸を保有していないため、水を印旛広域水道から購入しているため、類似団体より高い数値となっています。



②管路経年化率（％）



【指標の説明】

法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表した指標で、管路の老朽化度合いを示しています。

【算出式】

$$\frac{\text{法定耐用年数を経過した管路延長}}{\text{管路延長}} \times 100$$

本市では、法定耐用年数（40年）を経過した管路は令和6年度（2024年度）までは発生していません。しかし、昭和59年（1984年）に敷設した管路が令和7年（2025年）に法定耐用年数を迎えるため、今後法定耐用年数を経過する管路は年々増加していきます。

管路を更新するためには膨大な費用が必要となることから、限られた財源の中で管路を更新するため、令和5年度（2023年度）にアセットマネジメント計画を策定し、更新基準年数を設定し、50年～100年で更新することとしたため、令和16年度（2034年度）から更新需要が発生します。



各施策の取組実績

1) 計画的な施設の更新・耐震化

方針: 令和4年度に管路更新計画を策定。

実績: 令和5年度に令和5年度～令和44年度を計画期間とするアセットマネジメント計画(管路更新計画)を策定した。

2) 業務継続計画に基づく危機管理対策

方針: 防災訓練などを活用した応急対策訓練など危機管理対策の充実。

実績: 千葉県企業局や印旛広域水道と連携し、情報伝達訓練や応援給水要請の訓練等を定期的に実施。

3) 水道施設の総合的な管理向上

方針: 水安全計画の定期的な見直しを行い、水道水の安定的な供給・水質管理を実現する。

実績: 令和4年度に水安全計画の改定を行った。また、水道法に基づく水質検査により、安定的な供給・水質管理に努めた。



各施策の取組実績

4) 水道施設の適切な維持管理

方針：施設・設備の効率的、効果的な維持管理・修繕を行う。

実績：配水管の洗浄作業や配水管・仕切弁の修繕などにより、適切な維持管理に努めた。

5) 増加する業務量への対応

方針：上下水道施設の一括管理や民間委託など業務の効率化を行う。

実績：令和4年度から白井配水場と下水道ポンプ場の維持管理を上下水道一括発注することにより効率化を行った。

6) 水道料金水準の定期的な見直し

方針：水道料金の改定も含めた検討を行い、安全・強靱な水道施設を持続させるための財源を確保する。

実績：令和2年4月の水道料金改定以降は、水道料金の見直しは行っていない。



今後の課題

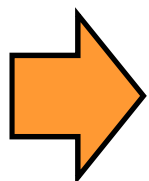
(1) 人口の減少に伴う給水収益の減少

令和6年度(2024年度)決算で経常収支比率が97.87%となり、赤字となっていますが、今後給水人口は減少していく見込みであり、給水収益の減少が見込まれる。

(2) 工事費・委託費の増加

配水管老朽化に伴い、令和16年度(2034年度)から更新需要が発生することから、工事費が増加していく。

物価・人件費の上昇により、工事費・委託費の増加が見込まれる。



水道料金の改定を検討する必要がある